# 小樽市経済動向調査結果

調査期間:平成30年1月から3月
調査対象:小樽市内の企業235社

3. 内 訳:製造業58、卸売業29、小売業34、運輸・倉庫業24、観光・サービス業53、

建設業37

4. 回答企業数:151社(64.3%)

5. 調査方法:調査票によるアンケート

※DI (景気動向指数:ディフュージョン・インデックス)とは・・・

好転(増加)企業割合から悪化(減少)企業割合を差し引いた値のことで、この数値がプラスかマイナスか、そしてその大きさによって景気の動きを時期的な推移の中で把握します。

## 概 況

## 一 市内景況は、改善している 一

前年同期(平成29年1月~3月)と比べた今期(平成30年1月~3月)の状況 今期と比べた来期(平成30年4月~6月)の予想

企業の景況感を示す業況判断DIは▲2.4で、前年同期と比べ9.9ポイント上昇したものの、4期続いた好転傾向はストップしました。

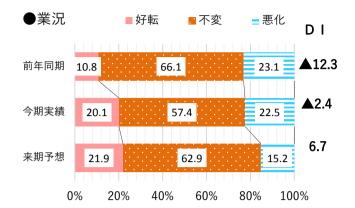
産業別DIは、製造業が原材料価格の高騰の影響により同10.2ポイント低下の $\blacktriangle$ 7.5となりました。観光・サービス業がインバウンドを中心とした需要に支えられ、同8.6ポイント上昇の8.6となりました。建設業は2016年の台風被害による復旧工事の発注が落ち着きつつあるものの、受注額は依然増加傾向にあり、15.2ポイント上昇の31.8となりました。卸売業は同34.1ポイント上昇の $\blacktriangle$ 5.9で、大幅な上昇となりましたが、原材料価格の上昇や従業員の確保難が課題となっています。運輸・倉庫業は原油価格の高騰や人件費の上昇が影響し、同4.5ポイント低下の $\blacktriangle$ 31.2となりました。小売業は同16.7ポイント上昇の $\blacktriangle$ 10.0となりました。市内人口の減少や商品仕入価格の上昇が懸念材料となっています。

来期の業況判断DIは6.7で、今期と比べ9.1ポイント上昇すると予想しています。人材不足の解消や、人件費の上昇分、原材料仕入額の上昇分の価格転嫁が全業種共通の課題となっています。

## 業況、売上、採算

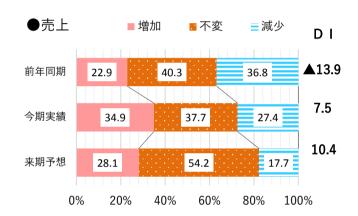
今期(H30.1~3)の業況判断DIは ▲2.4で、前年同期と比べ9.9ポイント 上昇しました。

来期(H30.4~6)のDIは6.7で、今期と比べ改善すると予想しています。



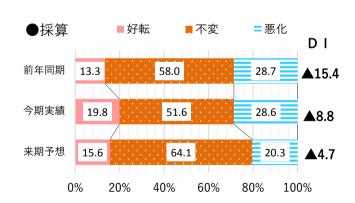
今期の売上高DIは7.5で、前年同期と 比べ21.4ポイント上昇しました。

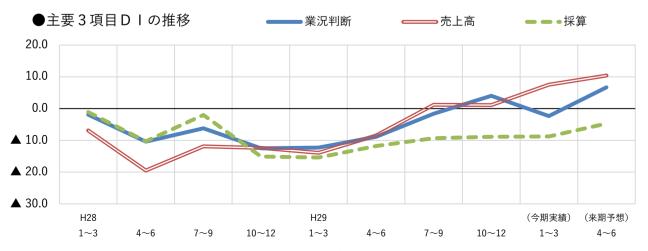
来期のDIは10.4で、今期と比べ増加 すると予想しています。



今期の採算DIは▲8.8で、前年同期と 比べ6.6ポイント上昇しました。

来期のDIは▲4.7で、今期と比べ改善すると予想しています。

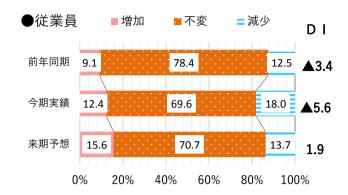




## 従業員

今期の従業員DIは▲5.6で、前年同期 と比べ2.2ポイント低下しました。

来期のDIは1.9で、今期と比べ従業員の増員が必要であると予想しています。



# 資金繰り、設備投資

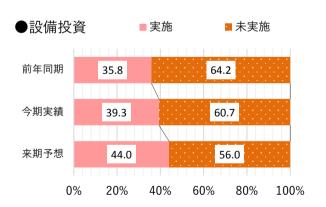
今期の資金繰りDIは▲0.2で、前年同期と比べ8.3ポイント上昇しました。

来期のDIは3.4で、今期と比べ改善すると予想しています。

●資金繰り ■好転 ■不変 悪化 DΙ 前年同期 4.9 81.7 13.4 **▲**8.5 今期実績 12.8 74.2 13.0 ▲0.2 来期予想 10.4 82.6 7.0 3.4 0% 20% 40% 60% 80% 100%

新規設備投資の動向では、回答の あった151企業のうち39.3%にあたる 59社が実施、前年同期と比べ3.5%増加 しました。投資内容は、1位が「車両 運搬具・輸送機材」、2位が「OA機 器」の順です。

来期は、44.0%(66社)が設備投資 を計画していると回答しています。

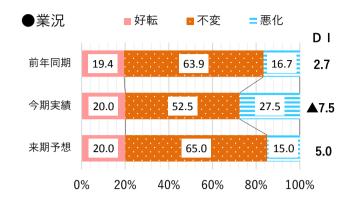


# 製造業

### 業況、売上、採算

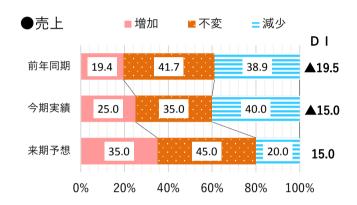
今期(H30.1~3)の業況判断DIは▲7.5 で、前年同期(H29.1~3)と比べ10.2ポイント低下しました。

来期(H30.4~6)は5.0で、今期と比べ改 善すると予想しています。



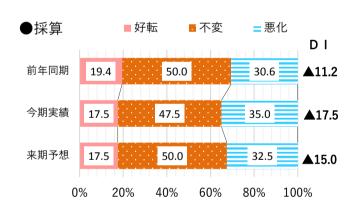
今期の売上DIは▲15.0で、前年同期と 比べ4.5ポイント上昇しました。

来期は15.0で、今期と比べ大幅に回復すると予想しています。



今期の採算DIは▲17.5で、前年同期と 比べ6.3ポイント低下しました。

来期は▲15.0で、今期と比べ回復する と予想しています。

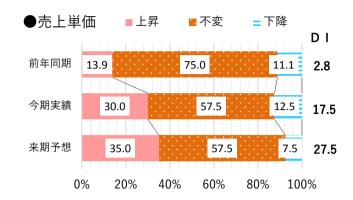




## 売上(加工)単価、原材料仕入単価

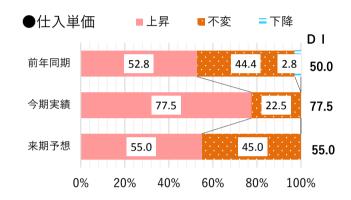
今期の売上単価DIは17.5で、前年同期 と比べ14.7ポイント上昇しました。

来期は27.5で、今期と比べ上昇すると予想しています。



今期の仕入単価DIは77.5で、前年同期と 比べ27.5ポイント上昇しました。

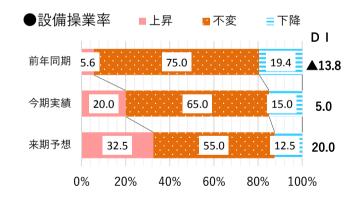
来期は55.0で、今期と比べ上昇感は弱まると予想しています。



## 設備操業率、従業員

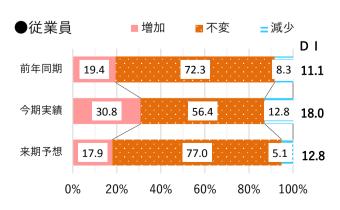
今期の設備操業率DIは5.0で、前年同期 と比べ18.8ポイント上昇しました。

来期は20.0で、今期と比べ上昇すると予想しています。



今期の従業員DIは18.0で、前年同期と 比べ6.9ポイント上昇しました。

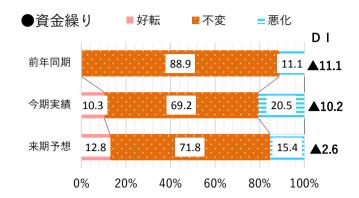
来期は12.8で、今期と比べ従業員の増 員が必要であると予想しています。



## 資金繰り、設備投資

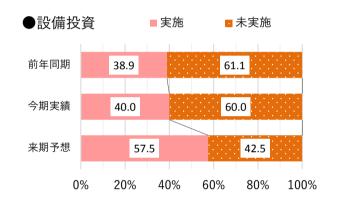
今期の資金繰りDIは▲10.2で、前年同期と比べ0.9ポイント上昇しました。

来期は▲2.6で、今期と比べ厳しさが 緩和すると予想しています。



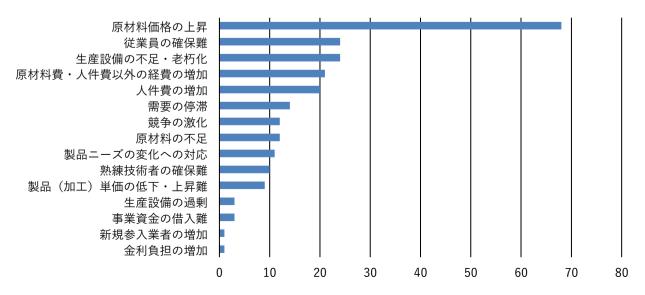
設備投資を実施した企業の割合は 40.0%で、前年同期と比べ1.1%増加しま した。投資内容は、1位が「生産設 備」、2位が「車両運搬具」、「付帯施 設」(同位)の順です。

来期に設備投資を計画している企業の 割合は57.5%で、今期と比べ増加すると 予想しています。



## 経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「原材料価格の上昇」、2位が「従業員の確保難」、「生産設備の不足・老朽化」(同位)の順です。



## 企業の声

#### 「今期の業況について】

- ■従業員を採用したため人件費が増加した。(ゴム製品)
- ■1月は売上がやや落ちたが、昨秋からの忙しさが継続し好調に推移している。人手不足感が顕著に現れ、 人員のやり繰りに苦労している。(金属製品)
- ■原材料の値上がりにより、採算が悪化している。(紙製品)
- ■前年同期と比べると業況は上向きだが、楽観視はできない。(食料品)
- ■人手不足は設備を省力化しながら、派遣、パート等で対応した。国内の水産加工原料が不足し、減産になったが輸出が伸び、売上・採算ともに現状維持となっている。(食料品)
- ■製品の価格転嫁がうまくいかず、売上が減少した。(食料品)
- ■一昨年の台風被害で農産物の収穫量が激減した影響が継続し、仕入価格は3割上昇、燃料費等の上昇も相 俟って採算が悪化した。(食料品)
- ■北海道フェア等の発注減のため、2月の売上が大幅に落ち込んだ。燃料費の高止まり、包装資材の値上げ、 運賃その他諸経費の上昇により、資金繰りと採算が悪化している。(飲食料品)
- ■原材料価格の高騰と1月以降の受注低迷で業績は悪化傾向にある。(化学)
- ■売上は増加したが、物流コストの上昇により利益率が下降気味である。(ゴム製品)
- ■災害復旧工事の受注はあるが、納期が定まらず在庫を抱える状態が続いている。(金属製品)

#### 「来期の業況について」

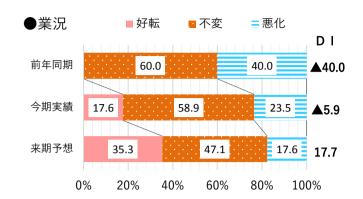
- ■人手不足を補うため、機械化を検討している。(食料品)
- ■4月から新規学卒者が多く入社するので、人材育成に力を入れる。(食料品)
- ■原料価格の推移を見ながら、製品価格の引き下げを検討する。(食料品)
- ■輸出の商談が進んでおらず、売上が減少する見込み。例年、春以降は飲料品の需要増が期待出来るが、 来期分の出足が鈍い。(飲食料品)
- ■物流コストの上昇により、4月以降、ほとんどの資材が値上がりする。(家具建具)
- ■新年度以降も受注を確保出来ており、しばらくは忙しい状況が期待出来る。(金属製品)
- ■原材料の値上り分を、販売価格に上手く転嫁出来るようにしたい。(金属製品)
- ■原材料の値上り分を製品価格に転嫁出来たため、採算は良くなる見込みである。(紙製品)
- ■今年は雪解けが早いので、農産物の出荷が早まり、野菜箱の受注増加に期待したい。(紙製品)
- ■原材料価格の高騰は一服する見込みのため、価格転嫁等により業績は回復する。(化学)
- ■物流コストの上昇分を価格に転嫁出来るかどうかによる。(ゴム製品)

# 卸 売 業

## 業況、売上、採算

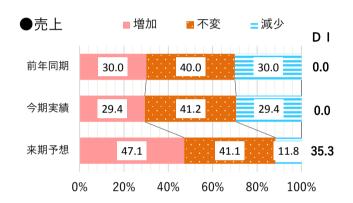
今期(H30.1~3)の業況判断DIは▲5.9 で、前年同期(H29.1~3)と比べ34.1ポイント上昇しました。

来期(H30.4~6)は17.7で、今期と比べ 大幅に改善すると予想しています。



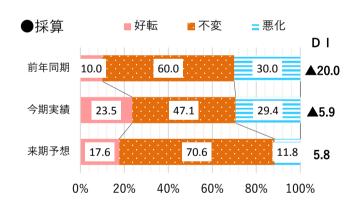
今期の売上DIは0.0で、前年同期比で横ばいとなりました。

来期は35.3で、今期と比べ大幅に増加すると予想しています。



今期の採算DIは▲5.9で、前年同期と比べ14.1ポイント上昇しました。

来期は5.8で、今期と比べ改善すると予想しています。

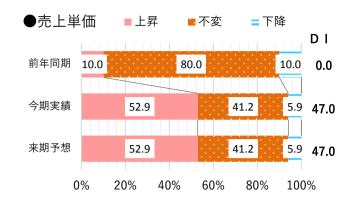




# 売上単価、商品仕入単価

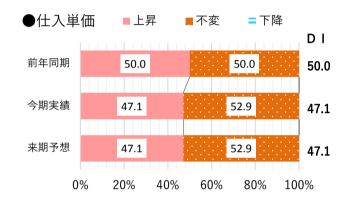
今期の売上単価DIは47.0で、前年同期と 比べ47.0ポイント上昇しました。

来期は47.0で、横ばいであると予想して います。



今期の仕入単価DIは47.1で、前年同期と 比べ2.9ポイント低下しました。

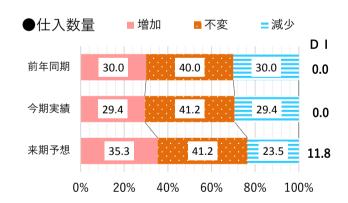
来期は47.1で、横ばいであると予想して います。



# 商品仕入数量、商品在庫数量

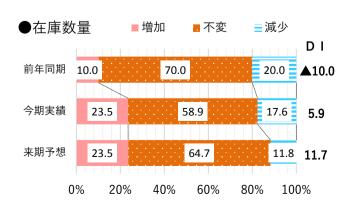
今期の仕入数量DIは0.0で、前年同期比で横ばいとなりました。

来期は11.8で、今期と比べ増加すると予想しています。



今期の在庫数量DIは5.9で、前年同期と 比べ15.9ポイント上昇しました。

来期は11.7、今期と比べ増加すると予想しています。



## 従業員

今期の従業員DIは7.7で、前年同期と比べ17.7ポイント上昇しました。

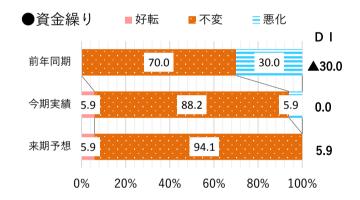
来期は15.4で、今期と比べ人員の増員が必要であると予想しています。



## 資金繰り、設備投資

今期の資金繰りDIは0.0で、前年同期と 比べ30.0ポイント上昇しました。

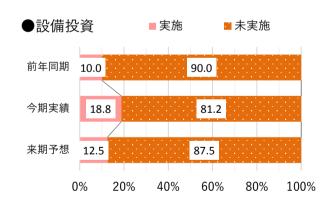
来期は5.9で、今期と比べ改善すると予想しています。



設備投資を実施した企業の割合は 18.8%で、前年同期と比べ8.8%増加しま した。投資内容は1位が「倉庫」、

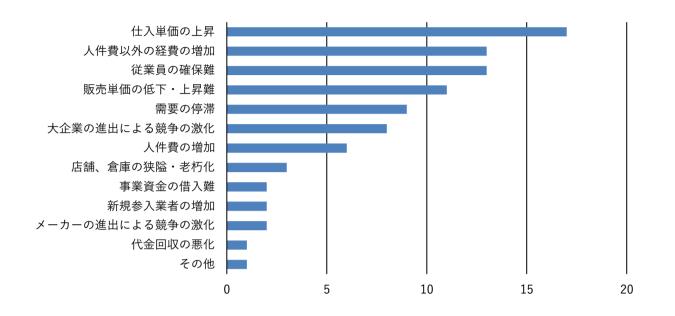
「OA機器」(同位)、2位が「車両運搬具」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の 割合は12.5%で、今期と比べ減少すると 予想しています。



## 経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は1位が「仕入単価の上昇」、2位が「人件費以外の経費の増加」、「従業員の確保難」(同位)の順です。



## 企業の声

### 「今期の業況について】

- ■欠員が出ても人材をなかなか確保できず、募集広告の成果が出ていない状況である。 (飲食料品)
- ■冬期は板金作業が中心となるが、今期は例年の仕事量を下回った。(自動車部品)
- ■前年同期はメーカーの値上げによる駆け込みがあり、今期はその反動減で減収減益となった。 ただ、駆け込み需要の分を除いても今期の売上は落ち込んだ。(鉱物・金属材料)
- ■仕入価格が上昇したが、上手く価格転嫁でき売上が増加した。(石油)

#### 「来期の業況について」

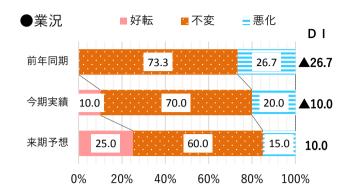
- ■売上が伸びている分、人材確保が喫緊の課題である。(飲食料品)
- ■車検需要期となることや、競合他社の撤退により、当社の仕事量・売上は増加すると見ている。 (自動車部品)
- ■新築物件受注の見通しがないため苦戦を強いられるが、今期をベースに考えると大幅な落ち込みはない。インバウンド需要を見越して新規設備投資が出来ることをに期待したい。 (鉱物・金属材料)
- ■販売単価が下降する見込みである。(石油)

# 小 売 業

## 業況、売上、採算

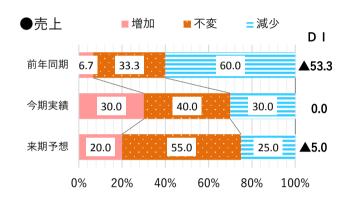
今期(H30.1~3)の業況判断DIは ▲10.0で、前年同期(H29.1~3)と比べ 16.7ポイント上昇しました。

来期(H30.4~6)は10.0で、今期と比べ大幅に改善すると予想しています。



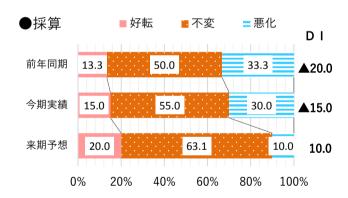
今期の売上高DIは0.0で、前年同期と比べ53.3ポイント上昇しました。

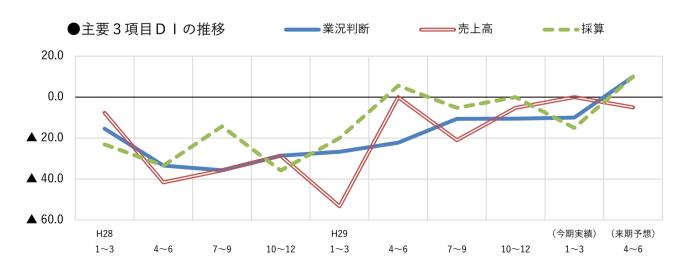
来期は▲5.0で、今期と比べ悪化すると 予想しています。



今期の採算DIは▲15.0で、前年同期と 比べ5.0ポイント上昇しました。

来期は10.0で、今期と比べ大幅に回復すると予想しています。

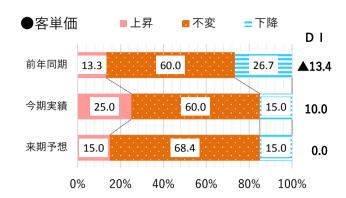




# 客単価、客数

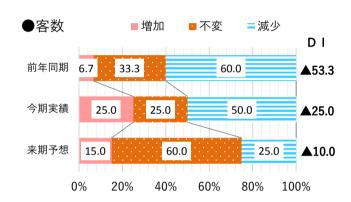
今期の客単価DIは10.0で、前年同期と 比べ23.4ポイント上昇しました。

来期は0.0で、今期と比べ低下すると予想しています。



今期の客数DIは▲25.0で、前年同期と 比べ28.3ポイント上昇しました。

来期はriangle 10.0で、増加すると予想しています。



## 商品仕入単価、商品仕入額、商品在庫数

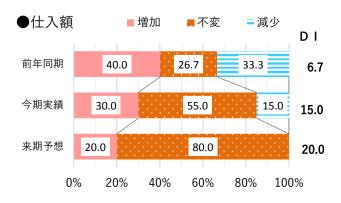
今期の仕入単価DIは40.0で、前年同期 と比べ20.0ポイント上昇しました。

来期は25.0で、今期と比べ低下すると 予想しています。



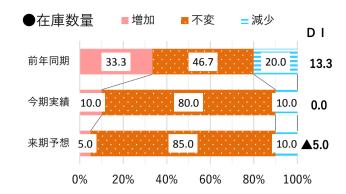
今期の仕入額DIは15.0で、前年同期と 比べ8.3ポイント上昇しました。

来期は20.0で、今期と比べ増加すると予想しています。



今期の在庫数量DIは0.0で、前年同期と 比べ13.3ポイント低下しました。

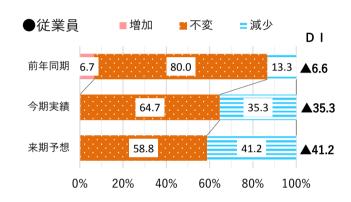
来期は▲5.0で、今期と比べ減少すると 予想しています。



### 従業員

今期の従業員DIは▲35.3で、前年同期 と比べ28.7ポイント低下しました。

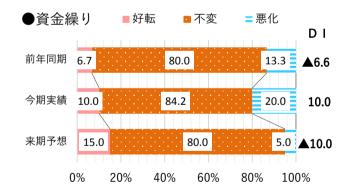
来期は▲41.2で、従業員が減少すると 予想しています。



## 資金繰り、設備投資

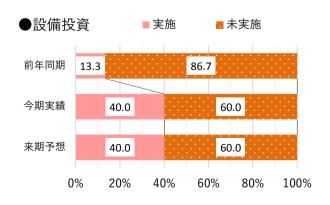
今期の資金繰りDIは10.0で、前年同期 と比べ16.6ポイント上昇しました。

来期はriangle 10.0で、厳しさが大幅に増すと予想しています。



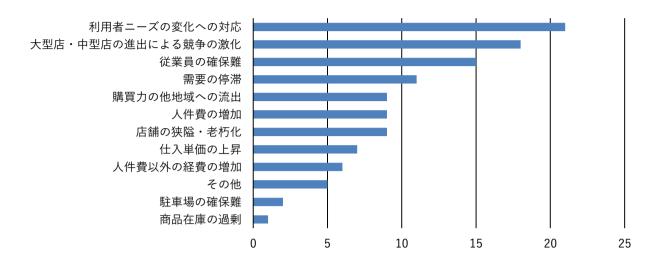
設備投資を実施した企業の割合は 40.0%で、前年同期と比べ26.7%増加しました。投資内容は1位が「車両運搬 具」、2位が「販売設備」、「付帯施 設」(同位)の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は40.0%で、今期と比べ横ばいを予想しています。



### 経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「利用者ニーズの変化への対応」、2位が「大型店・中型店の進出による競争の激化」、3位が「従業員の確保難」の順です。



### 企業の声

#### 「今期の業況について】

- ■クレジットカード、電子マネー決済の利用が大きく伸びている。(飲食料品小売)
- ■原材料(農産物)の価格上昇により、商品の見直しを考えざるを得ない。(菓子製造小売)
- ■人材不足が深刻化している。(カー用品店)
- ■商圏人口の減少が売上に影響している。アルバイトを確保出来ず、経営に支障をきたしている。(コンビニ)
- ■売上高は微増で推移している。粗利益率は変わらないため、わずかだが増収増益で着地する。(食料品小売)
- ■雪の影響で客足が鈍り、減収減益となった。(精肉店)
- ■2月の売上は良かったが、繁忙期の3月に例年の勢いがない。主力車種の人気が落ち、客数は微減している。 (自動車販売店)
- ■ネット通販との競争に押されている。(スポーツ用品店)
- ■競合店舗と自社グループ店舗の出店により売上が減少した。チラシ掲載商品に低価格を打ち出した分、客単価が下がった。 (ホームセンター)
- ■冬期は天候不順であったが、現状を維持することが出来た。(陶磁器小売店)
- ■円高による輸入材料の高騰により仕入商品の価格が上昇している。顧客もスーパー、100円ショップに流れて 売上が減少している。特に、若者の来店が減っている。(時計店)
- ■少子高齢化や人口減による客数の減少、店舗の従業員不足等が影響し業況は良くない。(スーパーマーケット)

#### [来期の業況について]

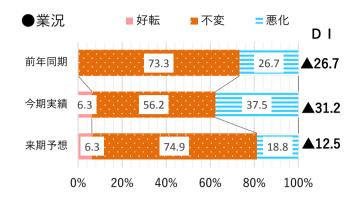
- ■商店街への客足の落ち込みが、先行きへの不安材料になっている。(かばん小売)
- ■米の減反政策が廃止されたため、今後の状況が不透明で新年度の収益予測が立たない。売上高は、さほど変わらないだろうと予想している。(食料品小売)
- ■新規顧客を獲得し、前期の落ち込み分を取り戻したい。新たに従業員を2名を採用、人材確保のため賃上げを実施する。(自動車販売店)
- ■チラシ掲載商品は安さを打ち出すため、客単価は下がることが予想されるが、様々な販促企画を計画しており、 売上は増加する見込みである。(ホームセンター)
- ■行楽シーズンで客足が遠のくため、商況は厳しさを増す。 (陶磁器小売店)
- ■人口減少と可処分所得の低下により景気が低迷しているので期待薄である。(時計店)

# 運輸・倉庫業

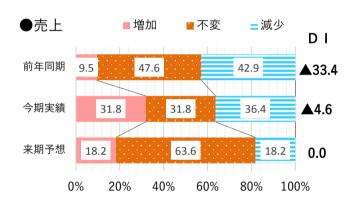
# 業況、売上、採算

今期(H30.1~3)の業況判断DIは ▲31.2で、前年同期(H29.1~3)と比 ベ4.5ポイント低下しました。

来期(H30.4~6)は▲12.5で、今期 と比べ改善すると予想しています。

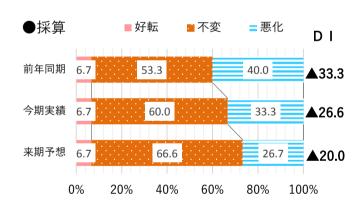


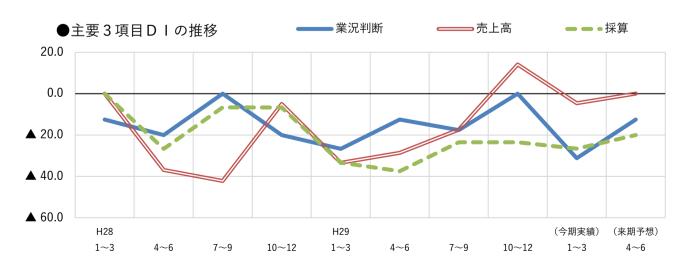
今期の売上高DIは▲4.6で、前年同期 と比べ28.8ポイント上昇しました。 来期は0.0で、今期と比べ増加すると 予想しています。



今期の採算DIは▲26.6で、前年同期と 比べ6.7ポイント上昇しました。

来期は▲20.0で、今期と比べ回復する と予想しています。





## 運賃·運送料単価、保管料単価

今期の運賃・運送料単価DIは12.5で、 前年同期と比べ12.5ポイント上昇しまし た。

来期は6.3で、今期と比べ低下すると予想しています。



今期の保管料単価は0.0で、前年同期比で横ばいとなりました。

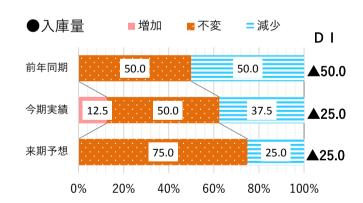
来期は0.0で、横ばいであると予想しています。



## 入庫量、出庫量、保管残高

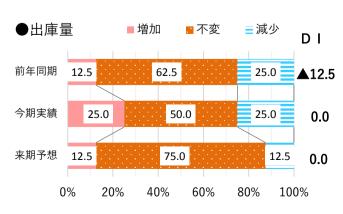
今期の入庫量DIは▲25.0で、前年同期 と比べ25.0ポイント上昇しました。

来期は**▲25.0**で、横ばいを予想してい ます。



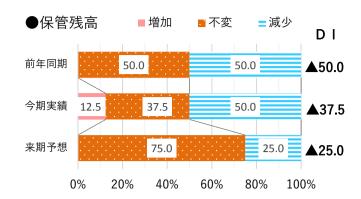
今期の出庫量DIは0.0で、前年同期と 比べ12.5ポイント上昇しました。

来期は0.0で、横ばいを予想しています。



今期の保管残高DIは▲37.5で、前年同期と比べ12.5ポイント上昇しました。

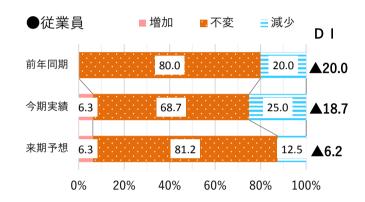
来期は▲25.0で、回復すると予想して います。



### 従業員

今期の従業員DIは▲18.7で、前年同期 と比べ1.3ポイント増加しました。

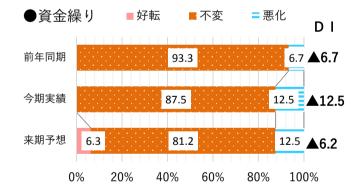
来期は▲6.2で、今期と比べ現状維持の 割合が強まると予想しています。



# 資金繰り、設備投資

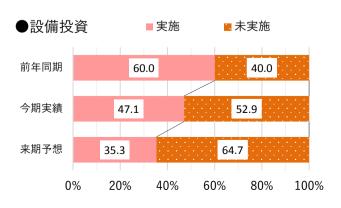
今期の資金繰りDIは▲12.5で、前年同期と比べ5.8ポイント減少しました。

来期は▲6.2で、今期と比べ厳しさが緩 和すると予想しています。



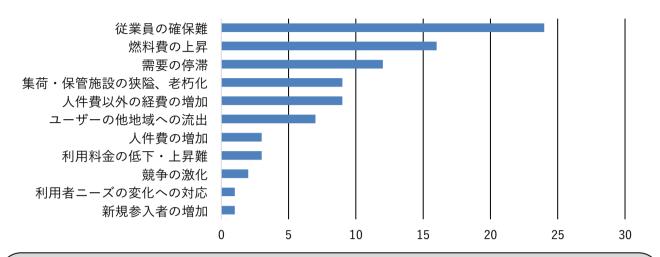
設備投資を実施した企業の割合は 47.1%で、前年同期と比べ12.9%減少し ました。投資内容は、1位が「輸送機 材」、2位が「OA機器」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の 割合は35.3%で、今期と比べ減少すると 予想しています。



## 経営上の問題点

今期直面した経営上の問題点は、1位が「従業員の確保難」、2位が「燃料費の上昇」、 3位が「需要の停滞」の順です。



### 企業の声

#### [今期の業況について]

- ■港湾での臨時運送業務を受注したことにより、売上が増加した。(道路貨物運送)
- ■主要取引先の生産量減少に伴い、運搬量が減少した。(道路貨物運送)
- ■燃料費、人件費、輸送機材費の上昇により、採算が悪化した。(道路貨物運送)
- ■貨物減少により、倉庫及び輸送ともに減少となった。(道路貨物運送)
- ■出庫量が増加した。(倉庫)
- ■荷動きの増加や、新造船の運行、配船の変更による便の微増が売上の増加に繋がった。また、燃料費の 増加によるBAF (燃料油価格調整金収受)の適用を受けた。 (水運)

※BAF: Bunker Adjustment Factorの略称で、燃料価格の変動に対して調整される割り増し料金のこと。

#### [来期の業況について]

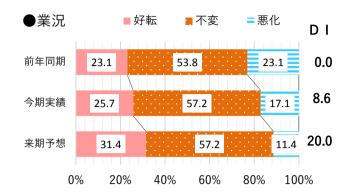
■他地域への流出による入庫量の減少が進むと考える。(倉庫)

# 観光・サービス業

## 業況、売上、採算

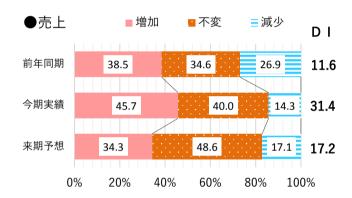
今期(H30.1~3)の業況判断DIは 8.6で、前年同期(H29.1~3)と比べ 8.6ポイント上昇しました。

来期(H30.4~6)は20.0で、今期と 比べ上昇すると予想しています。



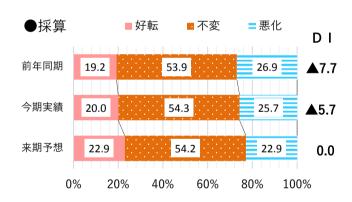
今期の売上高DIは31.4で、前年同期と 比べ19.8イント上昇しました。

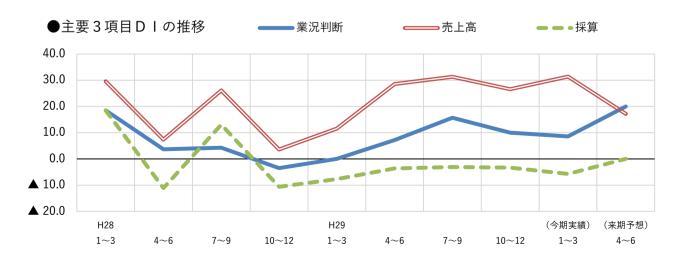
来期は17.2で、今期と比べ悪化すると 予想しています。



今期の採算DIは▲5.7で、前年同期と 比べ2.0ポイント上昇しました。

来期は0.0で、今期と比べ回復すると予想しています。

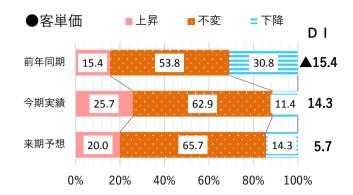




# 客単価、利用客数

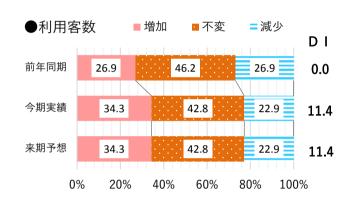
今期の客単価DIは14.3で、前年同期と 比べ29.7ポイント上昇しました。

来期は5.7で、今期と比べ低下すると予想しています。



今期の利用客数DIは11.4で、前年同期 と比べ11.4ポイント上昇しました。

来期は11.4で、横ばいを予想していま す。



## 仕入単価、従業員

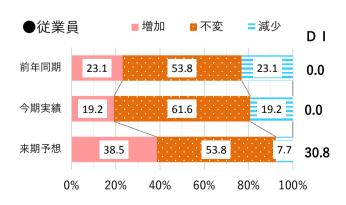
今期の仕入単価DIは62.8で、前年同期 と比べ16.7ポイント上昇しました。

来期は54.3で、今期と比べ仕入単価の 上昇感は弱まると予想しています。



今期の従業員数DIは0.0で、前年同期 比で横ばいとなりました。

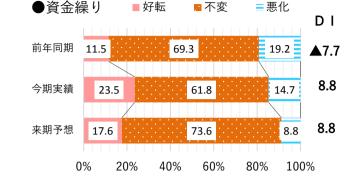
来期は30.8で、今期と比べ更に多くの 従業員を必要とすると予想しています。



# 資金繰り、設備投資

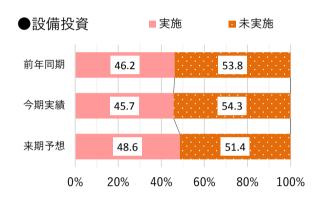
今期の資金繰りDIは8.8で、前年同期 と比べ16.5ポイント上昇しました。

来期は8.8で、横ばいを予想しています。



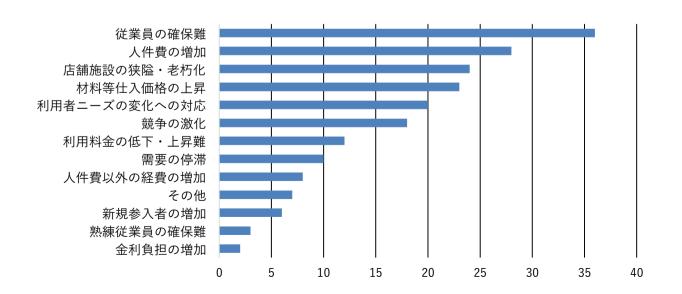
設備投資を実施した企業の割合は 45.7%で、前年同期と比べ0.5%減少しま した。投資内容は、1位が「サービス設 備」、2位が「OA機器」、3位が「付 帯施設」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は48.6%で、今期と比べ増加すると予想しています。



### 経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「従業員の確保難」、2位が「人件費の増加」、3位が「店舗施設の狭隘・老朽化」の順です。



### 企業の声

#### 「今期の業況について】

- ■インバウンドの団体客が減少し、個人客が主流となった。(ホテル)
- ■国内ツアー客の落ち込みが続き、売上はなかなか伸びない。(飲食店)
- ■外国人観光客が増加したことで、好調な業績を維持できている。(社会教育)
- ■賃金の上昇や、発送料金の値上げなど、業況を悪化させる要因もあったが、インバウンド客の増加と メディアの効果により、全体として業況は好転した。 (土産品)
- ■本業の売上減少と、新事業の売上増加により、売上額は不変だった。(教養・技能教授業)
- ■客室料金のレートを、当日までの空室状況で変動させた(固定から流動へ変更した)ところ、予約 直前のお客様を誘致でき、業況はより好転した。 (ホテル)
- ■4月は改装工事があり、1館使用不可の中営業したため、客数が減少した。(ホテル)
- ■人材確保難と、動力燃料費の上昇が進行している。(各種物品賃貸業)
- ■インバウンドが好調で、特にニセコ、キロロのスキー需要が多かった。(レンタカー)
- ■当社店舗においては、外国人客が少ないため、インバウンドはあまり見込めない。原材料単価は 高止まり傾向にあり、利益率は好転しづらい状況である。(土産品)
- ■運送料等の諸経費の増額により、仕入材料費も上昇した。(土産品)
- ■さっぽろ雪まつり、小樽雪あかりの路の時期に業況が回復した。(土産品)
- ■売上は伸びたが、人件費や経費の支出も増えた。(土産品)
- ■小樽市の人口減少に伴い客数は減少している。また、同業者の増加や様々な店でクレジットカード機能付きのポイントカードが発行されるなど、競争が激化している。過去には、親から子へ自社のカードを勧める家庭も多かったが、同業者の増加や子世代の市外への流出により、そういった傾向も見られなくなってきている。(クレジットカード業)
- ■前期より10%強売上がアップした。人材の確保に苦労している。(水運業)

#### [来期の業況について]

- ■ホテル建設ラッシュ、民泊増加による競争の激化が予想される。安価路線、高級路線の二極化が進むと 考えている。(ホテル)
- ■国内ツアー客の増加による売上の増加を期待する。(飲食店)
- ■全体での売上は増加すると予想されるが、ベースアップ等人件費も増加すると思われる。 (教養・技能教授業)
- ■新規客室タイプを増設し、販売客数を増やしたことと、一部客室においてリニューアルを行い、告知を 行っていくことから、好転を予想している。(ホテル)
- ■新棟や入浴施設ができるため、売上、資金繰り、採算等全て好転する見通し。(ホテル)
- ■人材確保難と、動力燃料費の上昇が進行している。(各種物品賃貸業)
- ■来期もインバウンドに頼る傾向が続くが、企業努力で国内客を増やせるかもしれないと考えている。 (レンタカー)
- ■原材料単価が高止まり傾向だが、一部材料は今後上昇が予想され、店舗数の減少により、売上額も減少 することが予想される。(土産品)
- ■ゴールデンウィークに人出が増えることで、売上や客数が増加すると見ている。(土産品)
- ■観光シーズンに入り、売上は増加するが、外国人の比率が下がるため、客単価は下がると予想する。原料価格の上昇により、原料を買い込む必要性が高まる。職員採用に伴い、人件費が増えると予想する。 (土産品)
- ■小樽市の人口減少よる客数の減少や、競争の激化が進行すると考える。(クレジットカード業)
- ■人材確保のため、民間求人誌を活用しているが厳しい状況である。 5 %強の売上アップを目標とする。 (水運業)

# 建設業

## 業況、売上、採算

今期(H30.1~3)の業況判断DIは 31.8で、前年同期(H29.1~3)と比べ 15.2ポイント上昇しました。

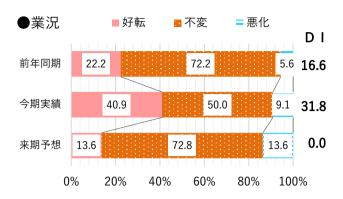
来期(H30.4~6)のDIは0.0で、今期と比べ大幅に悪化すると予想しています。

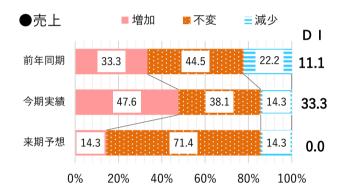
今期の売上高DIは33.3で、前年同期 と比べ22.2ポイント上昇しました。

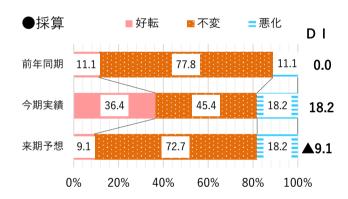
来期のDIは0.0で、今期と比べ大幅に 悪化すると予想しています。

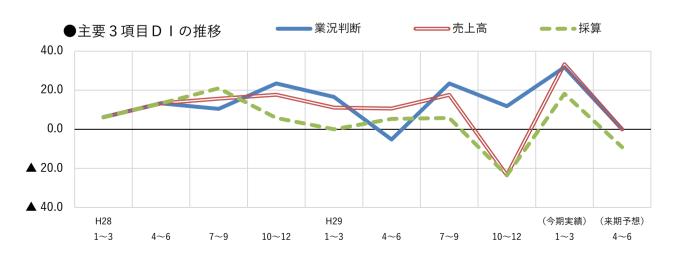
今期の採算DIは18.2で、前年同期と 比べ18.2ポイント上昇しました。

来期のDIは▲9.1で、今期と比べ大幅 に悪化すると回復すると予想していま す。





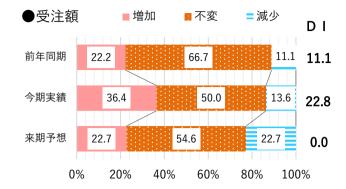




## 受注(新規契約工事)額、契約残(未消化工事高)

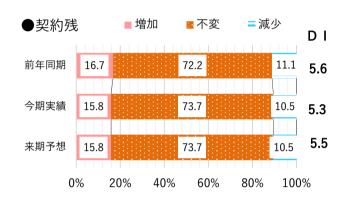
今期の受注額DIは22.8で、前年同期 と比べ11.7ポイント低下しました。

来期のDIは0.0で、今期と比べ大幅に 低下すると予想しています。



今期の契約残DIは5.3で、前年同期と 比べ0.3ポイント低下しました。

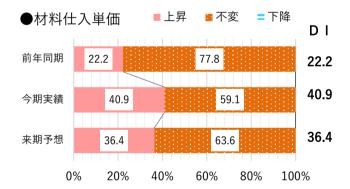
来期のDIは5.5で、今期と比べほぼ横ばいであると予想しています。



## 材料仕入単価、従業員

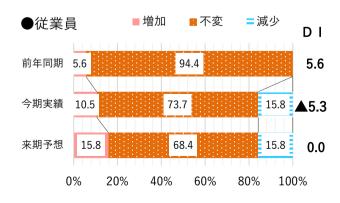
今期の材料仕入単価DIは40.9で、前年同期と比べ18.7ポイント上昇しました。

来期のDIは36.4で、今期と比べ上昇 感は弱まると予想しています。



今期の従業員DIは▲5.3で、前年同期 と比べ10.9ポイント低下しました。

来期のDIは0.0で、今期と比べ従業員の増員が必要であると予想しています。

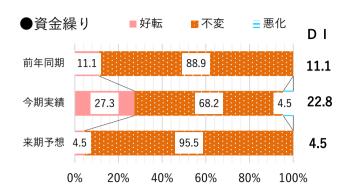


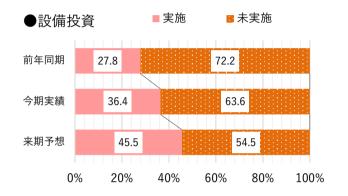
## 資金繰り、設備投資

今期の資金繰りDIは22.8で、前年同期と比べ11.7ポイント上昇しました。 来期のDIは4.5で、今期と比べ悪化すると予想しています。

設備投資を実施した企業の割合は 36.4%で、前年同期と比べ8.6%上昇しま した。投資内容は、1位が「OA機器」 2位が「車両運搬具」、3位が「建設機 械」の順です。

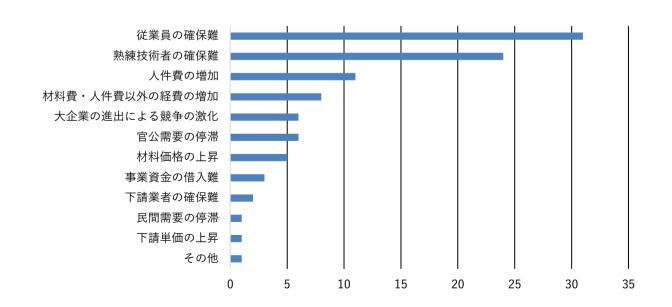
来期に設備投資を計画している企業の 割合は45.5%で、今期と比べ増加すると 予想しています。





### 経営上の問題点

今期直面した経営上の問題点は、1位が「従業員の確保難」、2位が「熟練技術者の確保難」、3位が「下請業者の確保難」の順です。



### 企業の声

#### 「今期の業況について】

- ■今期のこれまでの受注が順調だったため、前期と比べて好調となっている。また、人員確保の体制、システムの不備が社内の課題となっており、人員不足が慢性化している。 (一般管工事業)
- ■今期は一般土木工事から各期間の除雪請負作業への移行がスムーズに行えたことと、予想外の 多雪により受注額が増加、採算も順調であった。人材不足が懸念され、将来的には不安が残る。 (一般土木工事業)
- ■毎年1月~3月末まで、降雪の影響で仕事の受注が無い状況が続く。(職別工事業)

#### 「来期の業況について」

- ■土地の賃貸契約の問題で、砕石部門における、砕石面積の減少が予想される。 (一般土木建設工事業)
- ■今期の売上が好調だった分、来期の売上は例年程度まで減少する見通しである。受注も例年通りを予想しているが、市内物件よりも後志方面の受注が中心になると見ている。 (一般管工事業)
- ■来期の発注予定の詳細が判明しないため、予想は難しいが、設備投資額は変わらないなど、今期と大差はないと思われる。人材は、定年等を理由とした退職予定者がいるため、現在募集しているが、確保の目途は立っていない。(一般土木工事業)

# 市内企業倒産状況

平成30年1月~3月 負債1千万円以上、東京商エリサーチ調べ

# 倒産件数は3件、前年同期比増加 負債総額は3億9,800万円、前年同期比増加

倒産件数

負債総額

3件

3億9,800万円

前年同期比

件数 +1件 (前年同期 2件) 負債 +1億7,200万円 (前年同期 2億2,600万円)

■1月 なし

■2月

飲食店(負債1,800万円:業績不振による破産)、建設資材販売(負債2億8,000万円: 業績不振による破産)の2件が発生した。

■3月

建築工事業(負債1億円:業績不振による破産)の1件が発生した。

市内建築確認申請受付件数・新設着工住宅戸数状況

平成30年1月~3月、小樽市建設部調べ

建築確認申請受付件数は53件、前年同期比減少新設着工住宅戸数は17棟35戸、前年同期比減少

建築確認申請受付件数

新設着工住宅戸数

53件

17棟35戸

前年同期比

件数 -4件

(前年同期 57件)

戸数 -3棟39戸 (前年同期 20棟74戸)